



第197号

発行所 一般社団法人 芝蘭会 京都大学医学部同窓会 〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町 TEL 075-751-2713 FAX 075-752-4015 E-mail:info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

主な内容

- ② 新任あいつつフォローシップ
③ KMS-FUNDだより
④ 平成30年度大関係院協議会定例総会
⑤ 京都大学同窓会東京支部創設連絡会
⑥ 支部だより「三重」
⑦ 支部だより「京都」「福井」
⑧ 支部だより「奈良」「徳島」
四三三同窓会 人事異動・会員計報

ノーベル生理学・医学賞受賞

本庶佑特別教授の快挙喜ぶ

芝蘭会会長 上本 伸二



本庶先生はアカデミアの会合での挨拶で同じことを述べられておられました。ノーベル賞受賞者としてテレビのゴールデンタイムでご発言されたことはものすごい重みのあるメッセージとして国民に届いたものと、私などは胸のすく思いで拝聴しておりました。まさに日本の科学技術力が明らかに低下してきているこの現状において、純粋な科学のための投資は日本復活のために必要不可欠なものであります。

わが国の高等教育支援は先進国OECDの中で、GDP比では最下位で、GDP比ではイギリスとイタリアに次いで下から3番目であり、改めて愕然とする少ない予算で

は学部や学科の閉鎖が行われております。京都大学においても運営費交付金の削減は同様であり、外部資金獲得で上記の不都合な状況を乗り切っているところと見えます。今年度の予算において、科研費や産学連携による受託研究費・共同研究費などの外部資金の合計は約80億であり、そこからの間接経費の9億を共通経費として、研究科長裁量経費として運用し、医学研究科の

クティブティーを維持している現状です。ひとえに医学研究科構成員の断絶の努力による賜物と感謝申し上げる次第ですが、一方で本来の研究と教育に邁進できる時間を犠牲にされていることを申し訳なく思っております。

わが国の大学教育や研究開発に対する姿勢が変化することを期待しながらも、京都大学医学研究科のさらなる発展のために不断の努力を継続いたしますので、芝蘭会会員の皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げます。そして、近い将来に第二の芝蘭会会員からのノーベル賞受賞者が出ることを期待しております。

では積極的に産学連携に取り組んできた実績があり、それを生かしてAMEDなどから資金を得てバイオバンク、ゲノムデータベース拠点などの整備を進めております。今後はそれらの拠点を有機的に連携するとともに2020年3月に開設予定のiPS等臨床試験センターともタイアップして、医学研究科内でシームレスに「From Bench to Bedside」を実践できる日本を代表するトランスレーショナル医療の拠点へと発展させたいと考えております。そして、学内外の研究者の多くの研究シーズから、本庶先生が成し遂げられた抗PD-1抗体を用いた免疫療法に続く京都発の画期的な治療法などの発信、世界中の疾病に苦しむ人たちに貢献できる人材育成のための環境作りを進めたいと思っております。

加えて近年、医学・医療のグローバル化の波が押し寄せ医学研究、教育を取り巻く環境も大きく変化しております。日本の医学部教育にも国際的認証が不可欠となつて医学教育の認証機関

芝蘭会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。

皆さま全員がご存じのことではあります。本庶佑京都大学高等研究院特別教授・京都大学医学部名誉教授の本庶先生は、生理学・医学賞受賞というこれ以上の栄誉は無いご快挙を述べさせていただきます。京都大学の歴史の中では湯川秀樹先生(物理学)、朝永振一郎先生(物理学)、福井謙一先生(化学)、益川敏英先生(物理学)、小林誠先生(物理学)、山中伸弥先生(生理学・医学)に次ぎ7人目の栄誉でございます。そして京都大学医学部出身者、すなわち芝蘭会会員初のノーベル賞受賞であります。また本庶先生は医学部長を2期6年間務められ、また、芝蘭会

は世界中の多くのがん患者に多大な恩恵をもたらしているという現実を考慮すればノーベル賞を受賞して当然という思いもあり、京都大学医学部の関係者は待ちに待っていた状況の中で大きな感動ではありましたが、一方では驚きはなかったのではないのでしょうか。

10月1日のノーベル賞受賞ニュースの後に本庶先生はテレビのインタビューにたくさん出ておられました。その際に、日本の科学研究を推進するために若くは若者に研究費をバラまかなくてはダメだ、と述べられていたことが印象的であり、大変にうれしく思いました。これまでも本

とわが国の高等教育支援は先進国OECDの中で、GDP比では最下位で、GDP比ではイギリスとイタリアに次いで下から3番目であり、改めて愕然とする少ない予算で

は学部や学科の閉鎖が行われております。京都大学においても運営費交付金の削減は同様であり、外部資金獲得で上記の不都合な状況を乗り切っているところと見えます。今年度の予算において、科研費や産学連携による受託研究費・共同研究費などの外部資金の合計は約80億であり、そこからの間接経費の9億を共通経費として、研究科長裁量経費として運用し、医学研究科の

クティブティーを維持している現状です。ひとえに医学研究科構成員の断絶の努力による賜物と感謝申し上げる次第ですが、一方で本来の研究と教育に邁進できる時間を犠牲にされていることを申し訳なく思っております。

わが国の大学教育や研究開発に対する姿勢が変化することを期待しながらも、京都大学医学研究科のさらなる発展のために不断の努力を継続いたしますので、芝蘭会会員の皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げます。そして、近い将来に第二の芝蘭会会員からのノーベル賞受賞者が出ることを期待しております。

では積極的に産学連携に取り組んできた実績があり、それを生かしてAMEDなどから資金を得てバイオバンク、ゲノムデータベース拠点などの整備を進めております。今後はそれらの拠点を有機的に連携するとともに2020年3月に開設予定のiPS等臨床試験センターともタイアップして、医学研究科内でシームレスに「From Bench to Bedside」を実践できる日本を代表するトランスレーショナル医療の拠点へと発展させたいと考えております。そして、学内外の研究者の多くの研究シーズから、本庶先生が成し遂げられた抗PD-1抗体を用いた免疫療法に続く京都発の画期的な治療法などの発信、世界中の疾病に苦しむ人たちに貢献できる人材育成のための環境作りを進めたいと思っております。

画期的治療法、人材育成へ

医学研究科長・医学部長 就任ご挨拶

岩井 一宏



臨床研修の後、昭和62年に大学院(内科系専攻・内科学第二講座)に入學いたしました。当時の第二内科は井村裕夫教授が主宰され、井村先生のご専門である内分泌以外にも多様な領域の疾患の診療、研究が展開されておりました。私は膠原病グループに属し、当時の胸部疾患研究所(現・ウイルス・再生医科学研究科)で研究に従事いたしました。平成5年から3年間、米国立衛生研究所(NIH)に留学の後、基礎系に転向し医学研究科・免疫細胞生物学分野(湊長博教授)に帰学い

たしました。その後、平成13年から大阪市立大学大学院医学研究科、大阪大学で生化学・細胞生物学の研究、教育に携わっており、平成24年に京都大学に帰学して細胞機能制御学分野(生理学第二)を担当し、現在に至っております。

「研究・診療・人材育成を通して病気で苦しむ方々に福音をもたらしたい」との諸先輩方の強い願いに基づいた弛まぬ努力のおかげで、京都大学医学研究科・免疫細胞生物学分野の優れた成果、人材が輩出して参りました。なか

でも昨年、医学研究科にとりまして大変嬉しいニュースがございました。6年間に亘る医学研究科長・医学部長をはじめとして多方面から京都大学を牽引してくださっている本庶佑先生(本学昭和41年卒)のノーベル生理学・医学賞の受賞でございます。その受賞理由である「免疫抑制の阻害による癌治療法の発見」の

主役である免疫抑制分子であるPD-1は本庶先生が医学部構内の研究室で発見され、その役割の解明、がん治療への応用の基礎的検討など全ての研究を京都大学で成し遂げら

れたいと思っております。構成員一同、京都大学医学研究科・医学部の発展に尽力して参りますので、芝蘭会の先生方におかれましては従来にもまして温かいご支援を賜ります様よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、私の医学研究科長・医学部長就任の挨拶とさせていただきます。

このたびは医学研究科長・医学部長を命ぜられ平成30年10月1日よりその任にあたり、おめでとうございます。岩井一宏でございます。就任にあたり、芝蘭会の皆さま方にご挨拶をさせていただきます。私は本学医学部昭和60年卒で、卒業後に神戸市立中央市民病院で2年間の初期

臨床研修の後、昭和62年に大学院(内科系専攻・内科学第二講座)に入學いたしました。当時の第二内科は井村裕夫教授が主宰され、井村先生のご専門である内分泌以外にも多様な領域の疾患の診療、研究が展開されておりました。私は膠原病グループに属し、当時の胸部疾患研究所(現・ウイルス・再生医科学研究科)で研究に従事いたしました。平成5年から3年間、米国立衛生研究所(NIH)に留学の後、基礎系に転向し医学研究科・免疫細胞生物学分野(湊長博教授)に帰学い

たしました。その後、平成13年から大阪市立大学大学院医学研究科、大阪大学で生化学・細胞生物学の研究、教育に携わっており、平成24年に京都大学に帰学して細胞機能制御学分野(生理学第二)を担当し、現在に至っております。

「研究・診療・人材育成を通して病気で苦しむ方々に福音をもたらしたい」との諸先輩方の強い願いに基づいた弛まぬ努力のおかげで、京都大学医学研究科・免疫細胞生物学分野の優れた成果、人材が輩出して参りました。なか

でも昨年、医学研究科にとりまして大変嬉しいニュースがございました。6年間に亘る医学研究科長・医学部長をはじめとして多方面から京都大学を牽引してくださっている本庶佑先生(本学昭和41年卒)のノーベル生理学・医学賞の受賞でございます。その受賞理由である「免疫抑制の阻害による癌治療法の発見」の

主役である免疫抑制分子であるPD-1は本庶先生が医学部構内の研究室で発見され、その役割の解明、がん治療への応用の基礎的検討など全ての研究を京都大学で成し遂げら

れたいと思っております。構成員一同、京都大学医学研究科・医学部の発展に尽力して参りますので、芝蘭会の先生方におかれましては従来にもまして温かいご支援を賜ります様よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、私の医学研究科長・医学部長就任の挨拶とさせていただきます。

では積極的に産学連携に取り組んできた実績があり、それを生かしてAMEDなどから資金を得てバイオバンク、ゲノムデータベース拠点などの整備を進めております。今後はそれらの拠点を有機的に連携するとともに2020年3月に開設予定のiPS等臨床試験センターともタイアップして、医学研究科内でシームレスに「From Bench to Bedside」を実践できる日本を代表するトランスレーショナル医療の拠点へと発展させたいと考えております。そして、学内外の研究者の多くの研究シーズから、本庶先生が成し遂げられた抗PD-1抗体を用いた免疫療法に続く京都発の画期的な治療法などの発信、世界中の疾病に苦しむ人たちに貢献できる人材育成のための環境作りを進めたいと思っております。

新任あいさつ

オリジナルな研究目指す

京都大学大学院医学研究科  
分子生体統御学講座  
医学化学分野 教授



竹内 理

平成30年10月1日付で分子生体統御学講座医学化学分野の教授を拝命いたしましたので、芝蘭会員の先生方にご挨拶申し上げます。

1. 患者安全の現状  
医療ミス (medical error) による死亡は、死因の第3位である。という衝撃的なタイトルの報告がある(BMJ 2016)。米国では、心臓疾患、悪性腫瘍に次いで、医療ミスによる死亡が第3位である、という内容である。何を医療ミスと定義づけるのか、という議論はあるにせよ、医療サービス提供において、標準に満たないプロセスがあり、それが死亡につながることはあり得る。私たち医療者は、医療者である限り、標準からの好ましくない逸脱を減らすための旅を続けている。そして、医療が常にダイナミックに変化している以上、それは終わりのない旅であるともいえる。

患者に害が生じることを減らすにはどうしたらよいか。世界保健機構は、コミュニケーション、協働(組織間の協働、連続性、引き継ぎ)の欠

て免疫学の基礎研究を開始し、大学院修了後は、日本学術振興会特別研究員、ハーバード大学ダナファーマシー癌研究所研究員、大阪大学微生物病研究所助教、同准教授、大阪大学免疫学フロンティア研究センター准教授(兼任)を経て、平成24年から京都大学ウイルス研究センター(平成28年から改組により京都大学ウイルス・再生医科学研究所)教授に就任し、研究

私は、平成7年に大阪大学医学部を卒業し、大阪大学医学部附属病院第三内科(現呼吸器・免疫内科)にて研修を開始いたしました。その後、大阪府急性期・総合医療センター研修医を経て、大阪大学大学院医学系研究科へ入学しました。大学院では、大阪大学微生物病研究所において、

如への取り組みが最優先事項だとしている。これは先進国共通の問題であり、途上国では、偽造薬や未熟な技術等のインフラの未整備による課題の解決が先である。先進国では、医療は専門分化し、各専門家たちはより高度

な医療を目指し続け、それは決して止まることはない。そして、その結果、一人の患者の医療サービスの提供に多くの医療者が関わり、その間での連携に、ときにはほころびが生じ、その内の一歩は、患者に害をもたらす。典型例が、放射線画像の診断結果報告書の内容を

を行ってまいりました。これまで、自然免疫による病原体認識とそれにより惹起される炎症制御の分子機構を中心として研究を進めてまいりました。大阪大学在籍時には、自然免疫細胞であるマクロファージが、トル様受容体を始めた自然免疫受容体が病原体感染を認識し炎症を惹起する機構とその生理的意義について、主に遺伝子改変マウスを用いて解析してきました。京都大学ウイルス研究センターで研究室を主宰してからは、自然免疫応答が負に制御され、炎症性疾患の発症を防ぐ仕組み

が勤務して大病院での発生リスクが特に高いと思われる。  
2. コミュニケーション  
コミュニケーションスキルを高める教育が必要だということは正論であるが、同調できない部分

は、引継ぎ項目をチェックリスト化する等のシステムの対策を講じることである。「コミュニケーションが必要となる場面」を「工程のひとつ」と捉える考え方である。マネジメントの専門家

分もある。現に、コミュニケーションスキルに問題がある職員が一定数存在する。教育は必要だが、それだけで解決することはいずれもできないと認識して、他の方法も組み合わせるの

フォロワーシップ



京都大学医学部附属病院  
医療安全管理部 教授  
松村 由美

とといった「システムの整備」を重視している。例えば、手術安全チェックリストは、手術に関する懸念事項に関するコミュニケーションが抜けな

らと関係し、特に炎症に関連するメッセンジャーRNAの分解を介した転写後制御の観点から研究を行っております。今後、免疫応答の制御機構を、オリジナルな観点から明らかにしていきたいと考えております。

医学化学分野は、医学部医学科2年生への生化学の講義、実習を担当いたします。医学教育に関し、医学生が基礎研究への興味を持つような教育をしていくよう心掛けていきたいと考えております。また、大学院教育を通じ、基礎医学研究者の養成にも尽力していきたい

ゼロにすべき患者安全上の目標である。手術安全チェックリストでは、手術室から出る前に、器具、ガーゼ、針のカウントが完了していることを確認することになっている。実際には、手術の途中でもカウントし、閉鎖前に

もカウントが一致しなければ、体内遺残の可能性が否定できないので、一致するまで閉鎖しない、ということが決められている。一致しないからといって、必ず体内にあるとは限らず、多くの場合は、カウントミスであったり、ごみ箱から出てき

らと思っております。医学化学教室は、早石修先生、本庶佑先生、長田重一先生を始めとした日本を代表する研究者がこれまで主宰されてきた、大変伝統のある教室でございます。このような教室を、後任として主宰する機会を賜りましたこと

とありますが、定型的にできない工程や、何か新たなことに取り組む際には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願

り、チームが「誤った判断」に従うことを回避できるであろうか。そのカギとなるのが、健全なフォロワーシップである。リーダーシップという言葉

葉はよく知られているが、フォロワーシップという言葉は、認知度が低いかもしれない。フォロワーシップとは、健全な批判ができ、他者に依存することなく、組織の目標に対して能動的・主体的に関わることができ

る。誰かが、リーダーとして判断を下す必要がある。しかし、時にリーダーが理不尽な判断をし、部下がおかしいと思うことも出てくる。高圧的な態度の医師もいるかもしれないし、その態度に左右されるスタッフもいるかもしれない。コミュニケーションの問題によって、安全な行動が阻害され

たところ、定型的にできない工程や、何か新たなことに取り組む際には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願

の、考え、に対する批判であり、上司の批判ではない。⑤両軸の中心にいるのが、生き残り型フォロワーである。

して、健康な成長にとって必要なのは、健全な批判をしてもらえる模範型フォロワーである。医療安全管理部門には、こうしたほうがより安全な

現状に対する問題意識を有しておられ、時に、今の仕組みはよくない、と批判をしてくれる職員である。このような意見を述べる職員がいることは、京大病院にとって財産である。病院では、新病棟が建設途中で、急性期が完成すると、急性期治療の体制、手術体制にも影響があり、病院として大きな変化を迎えることが予想される。新しいことに挑戦すること

は、リスクを負うことには、誇らしさやワクワクする気持ちを持つこともあれば、変化に対する不安を持つこともある。不安の内容を具体的に聞き取り、多職種の視点で検討し、解決策を模索することが、医療安全管理部門の業務のスタイルである。

そのためには、職員との対話が必要である。考え方の違う職員や異なる考えを有する職員と話をすることも多い。全ての話し合いが和やかに進むわけではなく、意見の対立や葛藤があり、ことがスムーズに進まないこともよくある。そのような場合において、妥協して解決を図るのではなく、時間がかかったとしても、話を続けること、共通の理解が得られることもある。誰しも、自分の意見に同調してくる他者に心安らぐとは思

え方を持つ各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

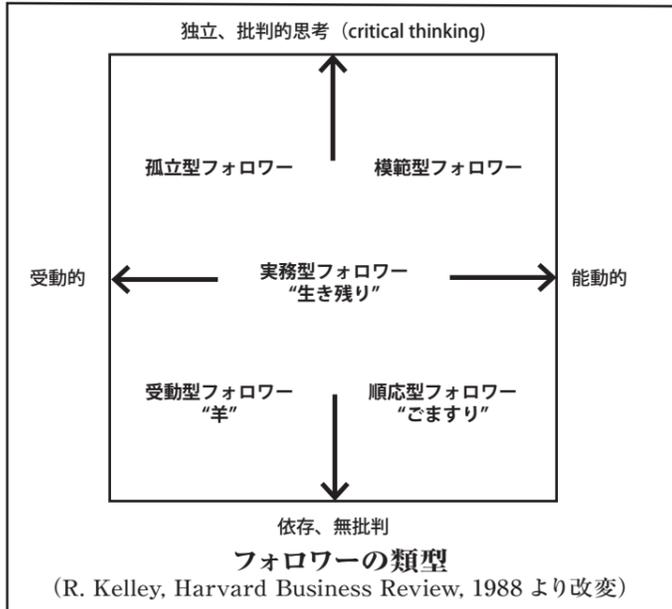
医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。

医療安全管理部門は、様々な価値観や異なる考え方を各組織と話をすることが仕事である。文句を言わせない、という考えでは仕事にならない。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。文句を言ってもらいたい。



フォロワーの類型 (R. Kelley, Harvard Business Review, 1988 より改変)

組織の成長にとって必要なのは、健全な批判をしてもらえる模範型フォロワーである。医療安全管理部門には、こうしたほうがより安全な

# 京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

## 充実した内容

### 第11回校友会総会・講演会



KMS・FUND 委員長  
消化器内科学分野  
教授 妹尾 浩

平成30年9月22日、医学部芝蘭会館稲盛ホール・山内ホールで第11回校友会総会・講演会が開催されました。総会では後藤校友会新会長と上本医学研究科長・医学部長からの挨拶・議事に引き続き、平成29年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)の授賞式が行われました。選考委員会による厳正な審査が行われた結果、多数の応募者のなかから受賞者として、心臓血管学分野・川東正英氏、機能微細形態学分野・宮内英孝氏、呼吸器内科学分野・山本佑樹氏の3氏が選ばれ、上本医学研究科長・医学部長より表彰状と副賞20万円を授与されました(所属は論文掲載時)。

今回の受賞論文は結果的にいづれも基礎的な内容となりましたが、臨床的な内容を扱った応募論文にも興味深いものが多く、京都大学の研究が基礎と臨床の双方で非常に高い水準を保っていることを確認した選考でした。今後も校友会の皆様方のご支援を賜り、若手研究者の一層の励みとなるよう

できました。実際に起こった医療事故を例にあげながら、どのようなしくみでエラーが生じ、大きな組織のなかでどのように仕組みを調整改善してリスクを管理していくかをご紹介いただきました。さらに、単に医療にとどまらない社会との関わりなかでのリスクコミュニケーションについても判りやすく解説してくださいました。最後に特別講演として、住友史料館の海原亮主席研究員をお招きして、「京都で医学を学ぶこと」江戸時代の医師修行」というテーマでお話をいただきました。日本の医療環境が、学問的・医療文化的に、そして医師の数の点からも江戸時代を境として急速に整備されたことを指南いただきました。さらに、江戸時代にはどのように医師を志す者が医師となっていたのか、その過程で京都が医師養成の中心



表彰される川東氏、宮内氏、山本氏

### 平成 29 年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 KMYIA 受賞者

氏名	現所属	論文提出時の身分	論文題目	掲載誌
川東 正英	医学部附属病院 (臨床研究総合センター) 助教	博士課程 医学専攻 (心臓血管外科学) 4 回生	Modelling Torsade de Pointes arrhythmias in vitro in 3D human iPS cell-engineered heart tissue	Nature communications
宮内 英孝	医学研究科 (肝胆臓・移植外科分野) プロジェクト研究員	医学研究科 (機能微細形態学分野) 技術補佐員	Bone morphogenetic protein and retinoic acid synergistically specify female germ-cell fate in mice	The EMBO Journal
山本 佑樹	医学研究科 (呼吸器内科学分野) 客員研究員	医学研究科 (呼吸器内科学分野) 研究生	Long-term expansion of alveolar stem cells derived from human iPS cells in organoids	Nature Methods

(50音順)

## 陸上、卓球、ESS 3 団体に校友会賞

平成30年9月22日に「第11回京都大学医学部校友会総会」が開催され、「第7回医学部校友会賞」の表彰式を行いました。

平成29年9月から平成30年8月までを単位年度として「課外活動報告書」を提出いただき、生活・課外活動支援委員会が検討した結果、今年度は医学部陸上競技部、医学部卓球部、医学部ESS部の3団体に授与すること

に決まりました。医学部陸上競技部は、個人種目において西日本医科学学生総合体育大会(以下、西医体)での優勝をはじめ数々の大会で優秀な成績を収められ、団体種目についても個人の力以上にチームとしての団結力やサポート力を発揮し、ともに創部12年目の快挙を成し遂げられました。



医学部卓球部は、他大との交流戦を積極的にに

行い、実践練習を積み重ねた結果、男女ともに西医学部卓球競技、春季近畿医科学学生卓球大会、北陸中部近畿卓球大会で個人、団体種目ともに上位成績を収められました。医学部ESS部は、英語力のほか、デリバリー、資料作成、英語論文のリサーチに日々励み、ESS最大の2大会(夏JEMA、NYSE)においてそれぞれのセクションで力を発揮し、優勝者、上位者を多数輩出されました。

## 講義を受け授業体験 医学部の心髄垣間みる キャンパスツアー

校友会親睦委員会で、新入生の保護者を対象とした第6回キャンパスツアーを企画し、去る5月12日(土)に43名の参加を得て実施いたしました。

午前9時45分に芝蘭会館に集合し、受け付け後、基礎医学記念講堂へ移動しました。この基礎医学記念講堂は、京大の建築に多大な功績を残した山本治兵衛氏の設計によるもので、昔の意匠(明治35年)を忠実に復元しつ

つ、耐震を考慮した改修がなされ、学生の講義に使われています。校友会土井会長の挨拶後、今春退官された小泉昭夫先生から「京大医学部の歴史の断片」と題した講義を受け授業体験をいたしました。

その後、京都帝国大学創設時に文部大臣として、また、私人として支援された公望の遺徳を偲ぶために、昭和19年に住友家から京都帝国大学に寄贈されました。大学の迎賓館として使用しているとのこと。

まず、出迎えてくれるのが、第7代総長荒木寅三郎先生の胸像と「不失其正」(其の正を失わず)の書です。「常に物事の真理と本質を見極めて真摯に正しい道を進むべきである」の戒め言葉に京大医学部の心髄を垣間見ることができました。そして、歴代文化功労者及び文化勲章受章者の紹介写真に圧倒され、解体新書(複製)、「室町三丁目本」、「室町二丁目本」、野口英世の学位論文(複製)等、貴重な古医書及び歴代教授の話題をたくさん伺うことができました。さらに、ノーベル生理学・医学賞受賞の山中伸弥教授と高橋和利講師のデイスカッションメモ

成功したその瞬間の貴重な資料、大正時代の心電計。これは田附政治郎氏をはじめとする近江商人の支援があり、「陰徳善事」の精神で病院や機器などを寄贈しています。他にも富士川文庫の旧蔵書9017冊からなり曲直瀬道三著「啓迪集」などの第一級の資料群であります。

最後は研究者の系譜として、藤浪鑑教授、天野重安教授、岡本耕三教授のお話や生体肝移植の手術器具、癌免疫療法の本庶佑教授のお話など多岐に渡ります。

その後は、医学部棟(医学アラザ)、第三臨床研究棟等を見学し、校友会発足後に完成した学生会館の内部も見学いたしました。

# 働き方改革など報告

## 平成30年度京大関係病院長協議会定例総会



講演する稲垣病院長

京都大学医学部附属病院は、去る10月12日(金)に平成30年度京大関係病院長協議会定例総会を芝蘭会館にて開催しました。本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企画することを目的として年一回、定例総会を開催しているものであり、学内外から160名余りが参加しました。

定例総会では、稲垣(1)より「臨床研究法の働き方改革に関する取組状況」について、それぞれ報告が行われました。さらに質疑応答では、関係病院の先生方との活発な意見交換が行われるなど、充実した定例総会となりました。また、定例総会終了後に開催された情報交換会において、出席いただいた関係病院の先生方と本院の先生方による活発な情報交換が行われ、大変有意義なものとなりました。



講演する細谷神戸市立医療センター中央市民病院長



講演する平岡日本赤十字社和歌山医療センター院長

暢也 病院長の開会挨拶、「京大病院の現状」について、滝田順子 教授(小児科長)より新任者挨拶、小西清彦 教授(医学研究科医学教育・国際化推進センター臨床教育部門長)より「臨床実習について」、妹尾浩 教授(消化器内科長)、八木真太郎 講師(肝胆膵・移植外科)、万代昌紀 教授(産科婦人科長)、小池薫 教授(初期診療・救急科長)より各診療領域の「新専門医制度の現状について」、笠井宏委 特定准教授(臨床研究総合センター)より「臨床研究法の

### [ 京都大学同窓会東京支部連絡会 ] の設立経過 (京都大学のホームページを参照) (表1)

回数	名称	開催年月日	開催場所	出席者		内容
				大学	東京支部	
1	第1回 東京支部連絡会	H24.9.20 (木)	京都大学 東京オフィス	大西有三理事・副学長、河野忠男渉外部長 他4名	各支部代表者等 23名	医学部の芝蘭会東京支部、経済学部同窓会東京支部、工学部の土木会東京支部と京機関東支部、及び農学部の関東緑洋会の5支部が本連絡会の幹事会を構成することになった。
2	東京支部連絡会幹事会(第1回)	H25.7.18 (木)	京都大学 東京オフィス	駒村正章渉外企画課長、小坂吉美京都大学同窓会事務局顧問	芝蘭会(幹事支部): 大高道也、二木隆(略)	会則案の検討。
3	京都大学同窓会事務局との打合せ	H25.7.26 (金)	松本楼	小寺秀俊理事・副学長、松井一純渉外部長、駒村課長、小坂事務局顧問	芝蘭会: 大高、二木	各条文の整備と解釈の統一を図った。
4	東京支部連絡会幹事会(第2回)	H25.9.27 (金)	学生会館 会議室	駒村課長、小坂事務局顧問	芝蘭会: 大高(略)	最終的に会則案を決定した。
5	第2回 東京支部連絡会	H26.2.20 (木)	学生会館 会議室	小寺理事・副学長、松井渉外部長 他2名	〈代表幹事〉芝蘭会: 大高、〈代表幹事代行〉芝蘭会: 二木	京都大学同窓会東京支部連絡会会則(案)が原案どおり承認された。また、現幹事会の代表幹事及び幹事を会則第5条第1項に定める代表幹事及び幹事とすることを決定。
6	東京支部連絡会幹事会(第3回)	H26.11.27 (木)	学生会館 会議室	駒村課長、小坂事務局顧問	〈代表幹事〉大高、〈代表幹事代行〉二木	現在の代表幹事及び幹事は全員再任とする。幹事会の構成を現在の経済、医学、工学(京土会、京機関)、農学の5支部に、新たに文学、法学、薬学、工学(友友会、工化会)の5支部を加え、10支部を増やす方針とした。
7	第3回 東京支部連絡会義及交流会	H27.4.9 (木)	学生会館 会議室	山極壽一総長、植田和弘副学長、小倉一夫総務部次長 他4名	〈代表幹事〉大高、〈代表幹事代行〉二木 支部代表者 20名	代表幹事及び幹事の再任が承認された。幹事会の活動を強化するため、現在の5支部に新たに支部を追加することが了承された。
8	東京支部連絡会幹事会(第4回)	H27.12.10 (木)	学生会館 会議室	一色博渉外課長、田村京市京都大学同窓会事務局局長	〈代表幹事〉大高(略)	平成28年4月に東京支部連絡会議及び交流会を開催することになった。また、会則第7条の代表幹事の輪番制の内容については、大高代表幹事に一任することが了承された。
9	第4回 東京支部連絡会義及交流会	H28.4.21 (木)	学生会館 (302号室)	徳賀芳弘副学長、土田英弘総務部次長 他3名	〈代表幹事〉大高、〈代表幹事代行〉二木(略) 支部代表者 20名	幹事会活動を強化するため、現在の5支部の体制に新たに2支部を追加すること、各支部への「連絡協力委員」選出への協力要請が了承された。代表幹事の輪番制のルール及び開始時期について大高代表幹事に一任することが了承された。
10	東京支部連絡会幹事会(第5回)	H28.12.17 (土)	学生会館 会議室	一色課長、田村事務局局長	〈代表幹事〉芝蘭会: 大高、〈幹事〉有信会: 出口尚明、経済学部同窓会: 宇野輝、土木会: 大澤一郎、京機関: 熊澤正博、友友会: 成宮憲一、関東緑洋会: 東海正	アンケート調査に基づく対応として、京都大学との共催で会員と高校生等市民向けの講演会の企画が望ましいとされた。また次回の連絡会議に於ける講演を土木会東京支部長 大石久和氏に依頼することが了承された。代表幹事については、役員選出学部の官制順の輪番制が了承され、平成29年度から2年間は法学部有信会出口尚明・代表幹事を候補者とし、次回の連絡会議で諮ることが了承された。
11	第5回 東京支部連絡会義及交流会	H29.4.22 (土)	京都大学 東京オフィス	徳賀副学長、土田総務部次長 他5名	〈代表幹事〉大高道也、〈代表幹事代行〉二木(略) 支部代表者 16名	アンケート調査結果に基づき、京都大学との共催で講演会を企画すること、具体的な内容については、第6回幹事会で検討することが了承された。代表幹事については、役員選出学部の官制順の輪番制とし、平成29年度から有信会の出口尚明・代表幹事を代表幹事とすることが承認された。

趣旨と道筋 一口に京都大学出身者といっても、ふだんは出会う機会がなかった方々といつても過言ではなく、このように同窓の交わりの場を構築すること自体が親交を深める機会ともなります。会則もよりよい会をイメージしながら、つくられたのです(表2)。

芝蘭会が一般社団法人に脱皮するとき、その目的も極力、社会に開かれたものにすべきではないかとの提案を行い、「...医学の発展並びに国民の健康と福祉の向上に寄与すること」が記述されましたが、東京支部連絡会の会則でも、第2条に「相互の親睦及び情報交換を行うとともに、京都大学の発展と社会貢献に寄与することを目的とする。」としました。

このような目的を達成するためには、まず共通の出会いの場を構築する必要があります。第3条の(1)に相互の親

### 創設への取り組み

京都大学同窓会東京支部連絡会・初代代表幹事 芝蘭会理事 (東京支部支部長) 大高道也

はじめに 今年(2018年)2月に、日野原重明先生の後任として筆者(大高)は芝蘭会東京支部の支部長を拝命しました。この機会に、芝蘭会の活動と並行して、二木隆氏(芝蘭会理事、現・東京支部顧問)とともに取り組んできた、京都大学同窓会

の東京における活動拠点を設置してきました(千代田区内から品川、そして現在の千代田区丸の内、新丸ビル10階に移転)。また、今年で13回目を迎える京都大学東京フォーラム(政・財・官の関係者が対象)もスタートさせていきました。

背景として2004年(平成16年)に国立大学の独立法人化が始まり、各大学が自主的、自律的に大学運営を行い、一層経営努力が求められるようになったことなどが挙げられます。このことは、本及び山極の各氏)が東

京に来られる機会をとらえて、京都大学の各学部・学科の同窓会支部に参集の呼びかけがなされ、医学部同窓会(芝蘭会)の活動の一端を担っていた筆者も、そのたびに会場の東京オフィス等に出向き、総長の講話を伺い、意向に沿うべく学部間の相互交流の促進に努めてきた一人でした。

このような延長線上において、いよいよ京都大学同窓会の東京での活動の拠点を設立する機運が高まってきました。しかし、人化されている芝蘭会に

この大きな課題が浮上してきたのです。一体東京という大都市でどれほどの京都大学出身者が就業しているのであろうか、どのようにして名簿をまとめ会費を徴収するのでしょうか? 同窓会活動にも先立つものが要する。各学部の東京支部関係者の思いは同じでした。

しかし、大学からはそのための予算および専従のマンパワーの確保は困難であるとの見通しが告げられました。このような状況の下ではそれなりの知恵を捻り出すしかありません。幸いといふべきか、筆者と二木隆氏とともに京都大学各学部の同窓会の中で唯一、一般社団法人として記しておきます。

「京都大学同窓会東京支部連絡会」の設立の経過を公式記録に基づき、表1に記しておきます。

京に求められる機会をとらえて、京都大学の各学部・学科の同窓会支部に参集の呼びかけがなされ、医学部同窓会(芝蘭会)の活動の一端を担っていた筆者も、そのたびに会場の東京オフィス等に出向き、総長の講話を伺い、意向に沿うべく学部間の相互交流の促進に努めてきた一人でした。

このような延長線上において、いよいよ京都大学同窓会の東京での活動の拠点を設立する機運が高まってきました。しかし、人化されている芝蘭会に



京都大学同窓会東京支部連絡会の発足

### 京都大学同窓会東京支部連絡会会則

(表 2)

(平成 26 年 2 月 20 日 連絡会承認)

- (名 称) 第1条 本会の名称は、京都大学同窓会東京支部連絡会（以下「連絡会」という。）とする。
- (目 的) 第2条 連絡会は、京都大学の学部、研究科等同窓会の東京（関東）支部（以下「支部」という。）相互の親睦及び情報交換を行うとともに、京都大学の発展と社会貢献に寄与することを目的とする。
- (事 業) 第3条 連絡会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。  
 (1) 支部相互の親睦を深める意見交換会、交流会等の開催  
 (2) その他、本会の目的を達成するために必要な事業
- (会 員) 第4条 連絡会は、次の各号に掲げる会員をもって組織する。  
 (1) 支部の代表  
 (2) その他、本会が認めた組織の代表
- (役 員) 第5条 連絡会に次の役員を置く。  
 (1) 代表幹事  
 (2) 幹事 若干名  
 2 代表幹事に代表幹事代行（以下「代表代行」という。）を置くことができる。
- (協力幹事) 第6条 前条の代表幹事及び幹事は、同職を辞した後も協力幹事として連絡会の運営に協力するものとする。
- (役員を選出) 第7条 代表幹事及び幹事は連絡会において互選により選出する。ただし、代表幹事は、原則として支部の輪番によるものとする。  
 2 代表代行は、代表幹事の指名により選出する。
- (役員職務等) 第8条 代表幹事は、連絡会を代表し会務をとりまとめる。  
 2 代表代行は、必要に応じて代表幹事の職務を代行する。  
 3 幹事は、代表幹事を補佐する。
- (役員任期) 第9条 役員任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。
- (連絡会) 第10条 代表幹事は、連絡会を招集し、その議長となる。  
 2 連絡会は、原則として年1回以上開催する。  
 3 連絡会では、会の運営及び事業の実施について審議する。その際、支部の負担が過重にならないよう配慮する。  
 4 連絡会の議事は、原則として出席会員の過半数をもって決する。
- (会 費) 第11条 原則として年会費等は徴収しない。ただし、事業ごとにかかる経費は、必要に応じて参加者から徴収し、会計報告を行う。
- (会則の変更) 第12条 この会則は、会員の過半数の承認により改正することができる。
- 附 則  
 1 この会則は、平成 26 年 2 月 20 日から実施する。  
 2 最初の役員任期は、第 9 条の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。  
 3 連絡会の連絡調整等は、当分の間、京都大学同窓会事務局が行う。

睦を深めるための「意見交換会」と「交流会」を謳いました。連絡会の会議を「連絡会議」と呼び、その後の打ち解けた集いを「交流会」としました。いずれの場でも意見交換はなされます。各支部の支部では単独事業で種々の集いもなされおり、アンケートも複数回取りましたが、外部からの受け入れや、相互乗り入れを実行することは、必ずしも容易ではなさそうでした。

そこで、山極壽一総長にご出席いただいた際、挨拶ではなく30分前後の講演をお願いしたのです。以後、会員による「ミニ講演会」が継続されてきました。しかし、社会貢献にもつながる講演会をこの思いが強くなり、「京

都大学同窓会東京支部連絡会の設立の経緯(表1)の10回では、「京都大学の共催で高校生も含めた一般市民を対象とした講演会」と表現されたのです。こうして、今年度中に京都大学との共催による、第1回の「未来フォーラム(仮称)」が開催されることになりました(於学士会館)。まずは、会員を対象とする講演会とし、講師は同連絡会が推薦します。それと同時に「ミニ講演会」は一旦その任を終えることになりました。

「協力幹事」、あるいは「ミニ講演会」、あるいは「ミニ講演会」が、だれでも参加できる「連絡協力委員」の制度、第11条の、「原則として年会費等は徴収しない」

「ミニ講演会」は一旦その任を終えることになりました。他の幹事の方々が、後任人事については大高代表に指名権を与えたとまでいってくださったことに感謝して、この間は、ご理解、ご協力をいただいた京都大学同窓会東京支部連絡会、事務局等の関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 西村、坂井両先生が講演



二つの特別講演があった三重支部総会

平成 30 年 7 月 16 日(月)、アスト津 4 階会議室にて平成 30 年度芝蘭会三重支部総会ならびに講演会が開催されました。

総会には奥田真弘先生の司会のもと、開会と物故会員への黙祷が行われ、平成 29 年度の会計報告のち、最後に次回の総会についての日時、場所の確

認が行われました。続いて、特別講演が行われました。一つ目の講演は三重大学大学院医学系研究科総合薬理学教授でいらつしやる西村有平先生による「リバーストランスレーショナルリサーチを基盤とする薬理学研究を指して」と題した講演でした。

まず、先生は年間に承認される新薬の数が減っているにもかかわらず、コストは上昇しているという問題を提示されました。その解決策として、先生は臨床での情報を基礎研究に生かす、リバーストランスレーショナルが大切であると考

えられておられました。次に、先生は UCL A に在籍し、自閉症を研究しておられた頃に行った、リバーストランスレーショナルについて説明されました。研究を行うにあたって重要だったのが UCL A

Autism Genetic Resource Exchange と呼ばれるバイオバンクでした。先生はこのバイオバンクを用いた解析を用いた論文を発表され、実際にそのアイデアが製薬に生かされることとなったそうです。臨床の事例に始まり、基礎の研究を経て、臨床現場での使用に持つて行くという、リバーストランスレーショナルリサーチが成功した事例の一つとなりました。

さらに、先生は三重大学に戻られてから、解析に時間がかかるネズミに取って代わるモデル動物としてゼブラフィッシュに注目したと、そしてそれを

用いて行ったナルコプシー(過眠症)の研究を紹介されました。リバーストランスレーショナルリサーチにおいて、先生は将来的に臨床のデータからならんかの仮説を立て、ゼブラフィッシュを用いてその仮説を検証するということをしたいと考

えられておられました。次に、先生はリバーストランスレーショナルリサーチにおけるビッグデータの重要性について説明されました。

ビッグデータの中でも、先生は電子カルテに注目されました。電子カルテの持つ利点として重要なのは、時系列によるデータを扱うことが可能だということです。時系列を上手く用いた解析は、ある一点のみに注目した解析に比べ、統計的に重要な意味を持つためです。ただ、基礎的研究を行っている、臨床の電子カルテのデータにアクセスすることは難しいため、先生は誰でも利用できる副作用のデータベースを統

計的な解析に用いることを提案しておられるそうです。最後に、ビッグデータから仮説を立て、それをモデル動物で検証し、製薬に結びつけていくという先生が理想とするリバーストランスレーショナルリサーチの流れをもう一度強調し、講演を締めくくられました。

二つ目の特別講演は、京都大学大学院医学研究科消化管外科学教授でいらつしやる坂井義治先生による「京都大学医学部・医学部附属病院の近況」について、臨床研究総合センターの改組やメディカル・イノベーションセンターの組織、そして事業会社 KBBM の設立などを中心にご報告されました。

次に、二つ目の、「おしりから見える未来の医療」と題された講演を行いました。先生はまず専門としておられる直腸癌の治療について説明されました。直腸癌は、肛門に近い部分にある場合、マイルズ手術と呼ばれる手術を行う場合が多く、こういった場合、肛門を残すことができないそうです。しかし近年は技術革新がすすみ、肛門括約筋に癌が浸潤していなければ、肛門を温存することが可能となったそうです。最近では、腹腔鏡やロボットを使った手術がほとんどで、肛門側からも腹腔鏡や、ロボットを使った手術が行われることもあり、手術

においてロボットがより重要になってきているそうです。その一つの例として、先生は色素をもちいて血管やリンパ節を発光させ、3D 構築を活用してナビゲーションを行う、より安全な直腸癌の手術の手法の一つを紹介して下さいました。

次に、先生はシンキュラリティの到来が近づくにつれてロボットがもたらすであろう医療革新について説明されました。Veri Surgical 社によると、我々は現在デジタルサージェリー時代と呼ばれる時代を迎えているとのことです。デジタルサージェリーとは、AI、ロボット、sensing technology などを用い、iCloud 上にある膨大なデータの中から今日の患者さんにマッチしたデータを手術ナビゲーションに活用することにより、より安全な手術を可能とします。

先生は、近い将来、肛門付近の癌の治療はロボットを使って自動で行うことも可能なのではと考えられています。今年のアメリカの外科学会においても、そのようなロボットが5年後には実用化できるといふ発表がありました。日本の医療技術の発展の遅さを実感されたそうです。

次に、先生は愛媛大学や奈良先端大学院大学と行っている共同研究や、ロボットを使った教育についても紹介して下さいました。

続いて、日本の人口減少がもたらす危機について説明されました。人口減少によつて国力が衰えていく中で、世界の医療などにおける技術革新についていかなくはならないジレ

ンマを感じられているように思いました。その後、直腸癌の手術を行うことに対して慎重になることの大切さについても説明されました。直腸癌の手術により、患者さんの QOL は激変するため、ガイドラインに則つて内科治療後に追加切除のため外科に紹介される患者さんについても、場合によっては手術をせずに様子を見たり、放射線治療をすることもあるそうです。ガイドラインの見直しも将来的には必要になるだろうとおっしゃっていました。

また、技術革新がすすめば、現在病院で行っているような検診を自宅で行い、疾患の早期発見につながることであれば、手術治療は減っていくのではないかと考えも示されました。

最後に、ビッグデータやオミックス解析、AI が搭載されたロボットによる手術と、早期発見による手術を伴わない治療の重要性を強調し、講演を締めくくられました。

講演終了後には記念撮影のち会場をうつし懇親会が行われました。懇親会では、たくさんの方々が我々雑誌部員にも話しかけて下さり、三重大学の医学部の状況や先生方の学生時代に関するなどの貴重なお話を伺うことができました。そして会は惜しまれながらも解散となりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい会にお招きいただいたことに感謝いたします。芝蘭会三重支部総会の報告を終えさせていただきます。(文責：2 回生 樺井良太郎)

### 産官学連携テーマに講演



阿曾沼氏の特別講演が行われた京都支部総会

#### 【京都】

平成30年7月1日(日)、芝蘭会館稲盛ホールにて芝蘭会京都支部総会が開催されました。

はじめに齋藤信雄先生による支部長挨拶がなされ、野口雅滋先生による司会進行のもと、庶務報告、会務報告、会計報告、議事が執り行われました。その後、京都大学理事・産官学連携本部長の阿曾沼氏による「京都大学の産官学連携について」ライフサイエンス領域を中心に」と題した特別講演が行われました。

京都大学は昨年指定国立大学法人に指定され、研究成果を活用する事業者への出資を法令に基づいて行うことができるようになりまし。それに伴い2014年からスタートアップへの投資、知的財産の管理、コンサルティングを担う京大グループ会社を設立することと「京大モデル」という新しい産官学連携のシステムを構築していきま。最も新しいグループ

会社は2018年6月に設立された「京大オリジン」です。主な事業は京大の研究成果の事業化を進める企業へのコンサルティング、社会への研究成果の発信であり、京大で創出された「知」を社会につなげ価値を生み出し、それによって得た収益を大学へ還元することで研究活動の活性化を図ることを目的としています。また、2014年に京大発ベンチャーへの投資を目的に「京大iCAP」が設立されました。民間のベンチャーファンドの運用期間の多くが10年であるのに対し、京大iCAPは公的資金を中心に15年の期間での投資を行い、リスクの高く民間資金の投資が困難なシード・アーリーステージへの支援を積極的に行っておりま。京大iCAPはベンチャーファンディングを通して京大の新規事業プロデューサーとしての役割も担っており、そのためサイエンスへの洞察や京大カルチャーへ

の深い理解を示す人材が今後一層求められるとおっしゃっていました。こういった産官学連携のエコシステムの構築はライフサイエンス分野においても随時進んでいきます。医学研究科には基礎研究から臨床研究、上市への流れを推進する組織が多くあり、その一つがメイカルイノベーションセンターです。これは大学・企業の一対一での連携の場として、両者の研究者が一つ屋根の下で共同して創薬・開発を行うことを目的としており、これらの共同研究に

はすでに大きな成果を生み出しているものもあります。イノベーションハブ京都は、異分野の研究者・企業との交流の場として2017年に発足しました。

こちらでは産学共同研究の拠点としてはもちろん、研究成果の実用化を目指す研究者や大学発ベンチャーへのラボの貸し出しなどを行い、ハード・ソフト面での支援を大学や大手企業から受けることができます。そのほか、医療機器開発の拠点として先端医療機器・臨床研究センター

が、臨床治験のサポートを行う臨床研究総合センター(iACT)が展開されており、さらにiPS細胞の臨床研究などを行う新病棟の建設が2019年に向けて進められています。最後に阿曾沼氏は、大学はアカデミズムを追求し研究者は自身の自由な発想にもとづいた研究を行うべきであり、京都大学は自由の学風を今後も保持していくことが重要であるとおっしゃり講演を締めくくられました。

総会が終わった後、隣りの山内ホールにてそのま

ま懇親会となりました。多くの先生方による挨拶や自己紹介がなされ、非常に賑やかな雰囲気の中で皆様方が楽しまれました。

我々雑誌部の学生にもお声をかけていただき、貴重なお話をたくさんお聞きすることができました。

最後になりましたが、このような素晴らしい会にお招きくださったことへの感謝の意をもって京都支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責・3回生 西垣利彦)

続いて、松田先生が今度は京都大学医学部附属病院副院長として「医学研究科・医学部について」というテーマで、京都大学附属病院の病院施設の整備計画や京都大学医学部校友会の活動に触れ、総会は終了となりました。

総会終了後には記念写真の撮影が行われ、その後、懇親会が開かれました。懇親会の中では参加された先生方が自由に紹介や近況などを自由に話され、またたくさん先生方が学生である私たちに語りかけてくださり、現在の大学の様子やカリキュラムなどに興味を持たれていました。こうして宴もたけなわになり、会は惜しまれながらも閉会となりました。

最後にはなりましたがいかに参加する機会を頂いたことに感謝の意を持って福井支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責・2回生 濱田草太)

### 2氏の研究発表と特別講演も



二つの研究発表と特別講演があった福井支部総会

#### 【福井】

平成30年8月11日(土)、ザ・グランユニオンスフカイにて、平成30年度芝蘭会福井支部総会が開催されました。

総会は福井支部長の野口正人先生の挨拶で始ま

り、続いて新入会員代表として村上晃規先生および和田晃大先生が挨拶をされました。その後、野口正人先生の進行のもと高木治樹先生の事業報告、廣瀬由紀先生による会計報告、そして腰地孝

続いて、福井大学医学部眼科学教室助教でいらつしやる辻隆宏先生による「バソプレリン及びその関連分子オキシトシンの中枢における役割」の研究発表が行われました。「信頼ゲーム」においてオキシトシン投与者が他者を信用する傾向が見られたことから、自閉症などの精神疾患に効果があるとされたオキシトシンをCD38ノックアウトマウスに投与したところ、母親の行動改善が見られました。このようにバソプレリン系の分子には社会認知に関与する効果があるそうです。

次の研究発表は杉田玄白記念公立小浜病院診療部統括診療部長兼消化器センター長でいらつしやる菅野元喜先生による「地方医療における大腸

癌治療成績の検討(がん診療拠点病院との比較)」でした。高齢僻地の病院である小浜病院とがん診療拠点病院の治療成績とを実際のデータで比較したところ、小浜病院の治療成績は許容範囲でありました。また、この結果から高齢者には化学療法も含めた、根治を目指す治療が有効だという結論に至りました。

その後、特別講演として京都大学大学院医学研究科整形外科学教授でいらつしやる松田秀一先生による「関節疾患治療の最前線」と題した講演が行われました。変形性膝関節症(OA)に関し、まずは何がOAの予後因子となるかを説明されました。年齢、女性、BMIや心の健康、そして腰痛の有無などがあげられるそうです。次にOAのタイプ別の治療法について触れられました。講演ではOAを機械的負荷、関節軟骨、滑膜炎、軟骨下骨の四つの

# 芝蘭会 会員名簿

## 73回・2018年版

73回・2018(平成30)年版

## 芝蘭会 会員名簿 刊行 しました

芝蘭会会員の皆様には、  
名簿作成にご協力いただき、  
ありがとうございました。

この度、平成30年12月に芝蘭会会員名簿を刊行いたしました。名簿作成にあたり、会員の皆様から快く異動情報等をお寄せいただき感謝申し上げます。会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせ下さい。

- 会員名簿：A4判、797頁
- 会員頒布代：一部5,400円(消費税を含む)  
(但し、会費納入者に限る。その他は10,800円)
- 送料：700円

一般社団法人 芝蘭会 事務局  
TEL：075-751-2713 FAX：075-752-4015

# 血液内科の現状など説明



高折先生の特別講演があった奈良支部

## 【奈良】

平成30年8月18日(土)、奈良ホテルにて平成30年度芝蘭会奈良支部総会が開催されました。

はじめに松村忠史先生による支部長挨拶と物故会員への黙祷が行われ、岡村隆仁先生による司会進行のもと、会計報告や次回総会について話し合われました。その後、京都大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科学教授の高折晃史先生より「医学研究科・医学部の現況」についての説明、そして「血液内科の現状と未来」と題した特別講演が行われました。講演の内容は以下の通りでした。

### ①血液内科について

血液内科は基礎研究と実臨床の距離が近いために臨床への基礎医学の導入が早く先進医療を問近に見ることができるといふ魅力があると述べられていました。一方、全国的にみると血液内科医の数は不足しており、分布に大きな地域差があるといふことを問題として挙げられていました。医師が

不足している地域にも医師を送るなど適正な人員配置の必要性を感じられていました。

### ②血液内科疾患の現状

悪性リンパ腫・白血病は主な固形癌と比較すると頻度は少なく、入院患者の内訳はおおよそ60%がリンパ腫、30%が白血病、10%が骨髄腫となっています。

高折先生自身が研修医であった頃は治らなかつた、慢性骨髄性白血病や多発性骨髄腫は新規治療薬が次々と登場し、今や「治る」病へと変わってきつつあります。また、造血幹細胞移植についてもほとんど進歩しており、H1Aが半分しか一致していないドナーからのハプロ半台致移植も可能となつています。日本では世界の中でも臍帯血移植が非常に盛んに行われており、成功率は50〜60%で予後も良好とのことでした。そして昔と違い、治るまでは移植は何回でも繰り返す行いことができるようになったそうです。

高折先生自身も、悪性リンパ腫・白血病は主な固形癌と比較すると頻度は少なく、入院患者の内訳はおおよそ60%がリンパ腫、30%が白血病、10%が骨髄腫となっています。

高折先生自身が研修医であった頃は治らなかつた、慢性骨髄性白血病や多発性骨髄腫は新規治療薬が次々と登場し、今や「治る」病へと変わってきつつあります。また、造血幹細胞移植についてもほとんど進歩しており、H1Aが半分しか一致していないドナーからのハプロ半台致移植も可能となつています。日本では世界の中でも臍帯血移植が非常に盛んに行われており、成功率は50〜60%で予後も良好とのことでした。そして昔と違い、治るまでは移植は何回でも繰り返す行いことができるようになったそうです。

高折先生自身が研修医であった頃は治らなかつた、慢性骨髄性白血病や多発性骨髄腫は新規治療薬が次々と登場し、今や「治る」病へと変わってきつつあります。また、造血幹細胞移植についてもほとんど進歩しており、H1Aが半分しか一致していないドナーからのハプロ半台致移植も可能となつています。日本では世界の中でも臍帯血移植が非常に盛んに行われており、成功率は50〜60%で予後も良好とのことでした。そして昔と違い、治るまでは移植は何回でも繰り返す行いことができるようになったそうです。

高折先生自身が研修医であった頃は治らなかつた、慢性骨髄性白血病や多発性骨髄腫は新規治療薬が次々と登場し、今や「治る」病へと変わってきつつあります。また、造血幹細胞移植についてもほとんど進歩しており、H1Aが半分しか一致していないドナーからのハプロ半台致移植も可能となつています。日本では世界の中でも臍帯血移植が非常に盛んに行われており、成功率は50〜60%で予後も良好とのことでした。そして昔と違い、治るまでは移植は何回でも繰り返す行いことができるようになったそうです。

高折先生自身が研修医であった頃は治らなかつた、慢性骨髄性白血病や多発性骨髄腫は新規治療薬が次々と登場し、今や「治る」病へと変わってきつつあります。また、造血幹細胞移植についてもほとんど進歩しており、H1Aが半分しか一致していないドナーからのハプロ半台致移植も可能となつています。日本では世界の中でも臍帯血移植が非常に盛んに行われており、成功率は50〜60%で予後も良好とのことでした。そして昔と違い、治るまでは移植は何回でも繰り返す行いことができるようになったそうです。

高折先生自身が研修医であった頃は治らなかつた、慢性骨髄性白血病や多発性骨髄腫は新規治療薬が次々と登場し、今や「治る」病へと変わってきつつあります。また、造血幹細胞移植についてもほとんど進歩しており、H1Aが半分しか一致していないドナーからのハプロ半台致移植も可能となつています。日本では世界の中でも臍帯血移植が非常に盛んに行われており、成功率は50〜60%で予後も良好とのことでした。そして昔と違い、治るまでは移植は何回でも繰り返す行いことができるようになったそうです。

高折先生自身が研修医であった頃は治らなかつた、慢性骨髄性白血病や多発性骨髄腫は新規治療薬が次々と登場し、今や「治る」病へと変わってきつつあります。また、造血幹細胞移植についてもほとんど進歩しており、H1Aが半分しか一致していないドナーからのハプロ半台致移植も可能となつています。日本では世界の中でも臍帯血移植が非常に盛んに行われており、成功率は50〜60%で予後も良好とのことでした。そして昔と違い、治るまでは移植は何回でも繰り返す行いことができるようになったそうです。

近年の癌免疫療法の進歩は、免疫チェックポイント阻害とCAR-T細胞の二つが大きな柱であると考えられています。両者とも癌を攻撃する細胞傷害性Tリンパ球について着目しているのですが、前者においてはPD-1阻害薬により、PD-1とそのリガンドであるPD-L1が結合することで生じる抑制性シグナルを阻害することで、細胞傷害性Tリンパ球の活性状態を持続させます。そのため、PD-L1の発現が知られているホジキンリンパ腫では大きな効果が期待されています。また後者では、患者のT細胞を取り出し、Chimeric Antigen Receptor (CAR) と呼ばれる特別な癌抗原だけに結合するT細胞受容体を人工的に発現させ、細胞培養させた後に患者の血中に戻すことで、体内で働く細胞傷害性Tリンパ球の量を増やすことができます。このCAR-T療法はアメリカでは既に認可されており、日本でも今年中にリンパ腫に対して認可される予定です。京大病院には、日本にまだ数カ所しかない細胞プロセスセンターがあるため、認可されればすぐにCAR-T療法を行うことができます。ただし値段が5千万円近くするため日本の保険制度との兼ね合いが今後の問題であると考えられていました。

### ③血液内科の未来

近年の癌免疫療法の進歩は、免疫チェックポイント阻害とCAR-T細胞の二つが大きな柱であると考えられています。両者とも癌を攻撃する細胞傷害性Tリンパ球について着目しているのですが、前者においてはPD-1阻害薬により、PD-1とそのリガンドであるPD-L1が結合することで生じる抑制性シグナルを阻害することで、細胞傷害性Tリンパ球の活性状態を持続させます。そのため、PD-L1の発現が知られているホジキンリンパ腫では大きな効果が期待されています。また後者では、患者のT細胞を取り出し、Chimeric Antigen Receptor (CAR) と呼ばれる特別な癌抗原だけに結合するT細胞受容体を人工的に発現させ、細胞培養させた後に患者の血中に戻すことで、体内で働く細胞傷害性Tリンパ球の量を増やすことができます。このCAR-T療法はアメリカでは既に認可されており、日本でも今年中にリンパ腫に対して認可される予定です。京大病院には、日本にまだ数カ所しかない細胞プロセスセンターがあるため、認可されればすぐにCAR-T療法を行うことができます。ただし値段が5千万円近くのため日本の保険制度との兼ね合いが今後の問題であると考えられていました。

## 支部だより

### 【徳島】

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

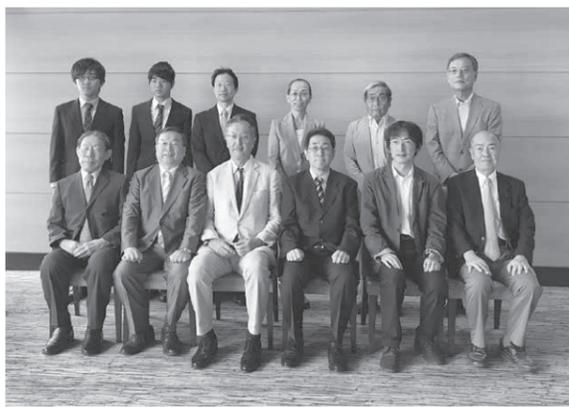
平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

## 精神医学をテーマに講演



村井先生の講演があった徳島支部

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

平成30年9月2日(日)、JRホテルクレメント徳島にて、京都大学芝蘭会徳島支部会が開催されました。TAOKAこころの医療センターの田岡雅世先生の司会の元、まずは写真撮影を行いました。続いて支部長でいらつしやいます、徳島大学先端酵素学研究所教授の福井清先生によるご挨拶がありました。先生は、昨年の支部会を

APOBEC3によるゲノム変異とDNA修復異常による発癌機構に関する基礎的・臨床的研究、(3) iPS細胞技術を用いた血液疾患ならびに血液再生医療に関する基礎的・臨床的研究、(4) HIVを含む感染症の病態とそれに対する生体防御に関する基礎的・臨床的研究、(5) 樹状細胞と癌免疫療法に関する基礎的・臨床的研究、(6) 造血幹細胞移植・細胞免疫治療に関する基礎的・臨床的研究の六つをテーマにされているとのことでした。先日iPS細胞を用いたパーキンソン

病治療の試験が始まりましたが、今後iPS細胞を用いた血小板の臨床研究も進んでいくだろうとおっしゃっていました。最後に今後の方向性として、血液疾患の病態解明と新規治療薬の開発を目指していくという意思を表明され講演を締めくくられました。

総会が終わった後は、懇親会となりました。非常に賑やかな雰囲気の下、皆様方が楽しまれており、多くの先生方による挨拶や近況報告がなされました。先生方のお話から奈良県の医療をより良くしていきたい、盛り

上げていきたいという非常に熱い思い、団結力の強さ、使命感をひしひと感じました。我々雑誌部の学生にもお声をかけて頂き、先生方の学生時代のお話や病院の話など貴重なお話をたくさんお聞きすることができました。そして会は宴もたけなわに解散となりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい会にお招きくださったことへの感謝の意をもって奈良支部総会の報告を終わらせて頂きます。(文責：5回生 稲元瑞月・上戸壽)

ここで先生は、IQが平均的で性格診断でも極端な思想の見られない人、ホモクリットと精神障害のある人比較して、正常異常逆転の法則を説明なさいました。これは、平和な時代はホモクリット、戦争などの異常事態では精神障害の疑いのある人が成功者として台頭している傾向があるという法則です。そこで先生は実際にアメリカやイギリスの大統領を引き合いに出してそれを説明なさいました。この法則の観点から歴史を見るととても興味深かったです。そして先生は、精神的健康・病気が成功・失敗は社会状況次第であるから、相手のことを精神疾患を患っているからと批判することはおかしいと結び、ご講演を締められました。

それから、日比野病院院長の日比野敏行先生の乾杯で懇親会が開催されました。途中、出席された全ての先生や私たちの近況報告を挟みながら楽しい歓談がなされ、どの先生も私たち学生に気さくに話しかけてくださいました。この様な貴重な機会にお招きいただきありがとうございます。これにて徳島支部会の報告を終わります。(文責：4回生 加古敦也)

## 芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。

ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。手続きについては芝蘭会事務局までお問い合わせください。

手続き等については、**芝蘭会事務局**

(TEL075-751-2713 FAX075-252-4015)

## ご注意ください!!

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたって、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意くださいようお願いいたします。

なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせはいたしておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

**芝蘭会事務局**

(TEL075-751-2713 FAX075-252-4015)

# 観光、ゴルフ3日間楽しく 四三会 卒後50年同窓会



京都で親交を深めた四三会卒後50年同窓会

昨年は明治150年であった。我々は明治75年(昭和18年)生まれが中心の学年である。生まれて75年が経った。明治100年(昭和43年、1968年)に卒業した。そこから50年が経った。

節目の年は京都開催という事で気合の入った同窓会を企画した。高齢者入りをしたところから、毎年、全国持ち回りで2日がかりの同窓会を催している。土曜日に宴会し、翌日の日曜日は小観光とゴルフのバターンである。今回は観光もゴルフも行きたくないというゴルフ組の意見を受けて、10月はじめに3日がかりの同窓会となった。初日の宴会は老舗料亭「ちもと」を選ぶ。創業300年、現在地へ移って150年。偶然だったが、この紹介で

お楽しみも喜んだ。記念撮り、祝舞「猩猩」で皮切り、たつぷりの時間を使得、51人全員スピーチ。欠席者の動向まで報告。2次会はまだまだあるという寺町の「しずか」へ間切れで断念。

2日目は2班に分かれてA班は京大迎賓館「清風荘」にて解説付きの活け花実演。次いで二条流煎茶茶礼。百グラム1万円と云う最高級玉露と四三特製の注文和菓子。B班はプロである森の案内人による解説付きの森散策。京都が山裾にしか人の住めないままで尾瀬のごとき湿原地帯であったこと、渡来人のかがい工事により今日の京都がある。出町柳の三角洲の意味、自然とともに自然に変わっていく森に

ついて新たな視点で教えられた。現在はいえのき、むくのき、けやきの木が3大植生だそう。A、B両班ともに吉田の学食に46人集合、時計台のラトゥールからのケータリングで昼食、舌鼓を打つ。本庶先生のノーベル賞を祝って5%引きと書いてあったが日曜日の臨時休業であるということに適わなかった。

午後はA、B入れ替わってそれぞれバスで出発。

3日目は本庶先生がエージ・シユートを狙う京都ゴルフ倶楽部で43ゴルフ同好会いろは会(医68会)コンペ。スコアは91から135というちよぼちよぼゴルフでエージ・シユートなど夢のまた夢。今年秋には静岡で開催という事で解散した。

## 人事異動

発令年月日	氏名	異動内容
H30.8.31	栗本 一基	辞任 機能微細形態学准教授より 奈良県立医科大学教授へ
H30.8.31	鈴間 潔	辞任 眼科学准教授より 香川大学医学部教授へ
H30.9.1	佐々木典子	採用 医療経済学特任講師より 同特定准教授へ
H30.9.30	岡島 英明	辞任 肝胆膵・移植外科学准教授より 金沢医科大学小児外科特任教授へ
H30.9.30	馬場 長	辞任 婦人科学・産科学准教授より 岩手医科大学産婦人科主任教授へ
H30.9.30	平野 恭敬	辞任 システム神経薬理学特任准教授より 白眉センター特任准教授へ

H30.10.1	竹内 理	採用 ウイルス・再生医科学研究所教授より 医化学教授へ
H30.10.1	田浦康二郎	昇任 肝胆膵・移植外科学講師より 同准教授へ
H30.10.1	柚木 知之	昇任 初期診療・救急科助教より 同講師へ
H30.10.1	八木真太郎	昇任 肝胆膵・移植外科学助教より 同講師へ
H30.10.30	斎藤 通紀	辞任 機能微細形態学教授より 高等研究院教授へ
H30.10.31	園部 純也	辞任 口腔外科学講師より 京丹後市立久美浜病院医師へ
H30.11.1	中尾 一祐	昇任 口腔外科学助教より 同講師へ

## 会員 訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

敬称略

高橋 嘉雄	昭和16年3月卒	ご逝去	井原 洵平	昭和25年専卒	平成29年6月10日	ご逝去	松尾 光雄	昭和31年卒	平成30年5月24日	ご逝去	
石垣 四郎	昭和18年卒	平成29年1月8日	ご逝去	川上 勇	昭和25年専卒	平成29年2月27日	ご逝去	泰井 俊造	昭和44年卒	平成30年7月	ご逝去
川口 重義	昭和19年卒	平成30年11月4日	ご逝去	伊藤 克己	昭和27年卒		ご逝去	永田 裕一	昭和60年卒	平成30年11月8日	ご逝去
正田 芳郎	昭和20年専卒	平成30年8月18日	ご逝去	大久保雄二郎	昭和29年卒	平成30年7月1日	ご逝去	武田 敏夫	教室会員 皮膚科	平成30年10月24日	ご逝去
酒井 謙三	昭和23年卒	平成29年8月17日	ご逝去	牧野 輝勇	昭和29年専卒	平成30年9月6日	ご逝去	林 卓	教室会員 整外	平成30年9月4日	ご逝去
酒井 泰弘	昭和24年卒	平成29年5月	ご逝去	井上 潔	昭和30年卒	平成30年10月31日	ご逝去	小林 恢	教室会員 口外	平成30年10月13日	ご逝去

## 原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。

芝蘭会報 編集委員会

## ●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。(FAX 075-752-4015)

芝蘭会報編集委員会  
委員長 高折晃史  
委員 斎藤信雄、中村保幸、山田圭介、園部誠、松村由美、阿部恵、諫田淳也

芝蘭会報誌部  
顧問 高折晃史  
部員 梅本大地、井上大志、菅原聡真、朴剛史、蔡嗣錡(以上6回生)、吉平智博、池尻憲紀、勝島千裕(以上5回生)、加古敦也、松本一希(以上4回生)、谷本将崇、西垣利彦、西村健太、小野譲騎(以上3回生)、原明弘、森田瑛、秋宗俊久、吉村太貴、権井良太郎、濱田草太(以上2回生)

芝蘭会事務局  
事務局長 山田 均  
総務課長 秋山和美  
管理課長 森 勝二

## 芝蘭会館がご利用いただけます

学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、京都観光のご宿泊に、芝蘭会館別館[国際交流会館]をご利用ください。

一般社団法人 芝蘭会 (しらんかい)  
**芝蘭会館別館**

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 11-1  
Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015  
E-mail: info@shirankai.or.jp  
http://www.shirankai.or.jp

レストラン [しらん] Tel. 075-752-1027



### 客室ご利用料金 (税込)

シングル (18室)	定員1	6,800円
ツイン (3室)	定員2	12,700円(シングルユース10,400円)
ファミリー(1室)	定員2	15,000円(シングルユース12,700円)

- 2018年10月1日より上記利用料金に「宿泊税」としてお1人様1泊につき200円をご負担いただきます。
- 宿泊室(全室洋室)は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネット接続付きです。
- 芝蘭会館(会費納付者)は宿泊利用料金を、1,000円割引させていただきます。
- チェックインタイムは午後3時、チェックアウトタイムは午前10時となっております。
- キャンセルについては、3日前より宿泊料金の半額を請求させていただきます。

### 研修室・会議室ご利用料金 (税込)

研修室1・2	定員60名	15,000円	18,400円	18,400円	4,600円
会議室B1	定員20名	9,800円	11,500円	11,500円	3,000円
和室1・2	定員10名	6,300円	8,000円	8,000円	2,300円

### 芝蘭会館別館へのアクセス

- 京都駅から  
●02 廣場 市バス206系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車徒歩2分
- 地下鉄「国際会館」行「今出川」下車出口3番、市バス201系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩2分
- 阪急河原町駅から  
●出口6番 市バス201系統「百万遍・祇園」行、31系「鞍馬野・岩倉」行「京大正門前」下車徒歩2分
- 京阪出町柳駅から 徒歩15分

